

アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業費

53百万円(60百万円)

自然環境局自然環境計画課

1. 事業の概要

- (1) 我が国は、これまで「国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)」の事務局の実施(平成17年7月から19年6月まで)、東アジア海・ミクロネシア地域サンゴ礁保護区データベースの作成等、アジア・オセアニア地域の中心国として、国際的なサンゴ礁の保全を推進。
- (2) 近年、生物多様性条約等の国際会議において海洋保護区のネットワーク化の重要性が指摘されており、関係国が協力して一層の努力をすることが必要。
- (3) このため、ICRIアジア・オセアニア地域会合を開催するとともに、アジア・オセアニアサンゴ礁保護区データベースの構築を引き続き実施し、まだ保護されていない重要な箇所を補足しながら、サンゴ礁保護区のネットワーク形成を目指す「アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク戦略」の作成に継続して取り組む。また、これらの成果を活用して、持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD、2002年)における「代表的海洋保護区ネットワークを2012年までに構築する」という国際目標の達成に貢献する。

本戦略の作成については、2007年11月に開かれた東アジア首脳会合で表明しているところ。

2. 事業計画

- (1) ICRIアジア・オセアニア地域会合の開催(21年度~)
- (2) アジア・オセアニアサンゴ礁保護区データベース構築(19~22年度)
- (3) アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク戦略作成(20~22年度)

3. 施策の効果

- (1) アジア・オセアニア地域重要サンゴ礁ネットワーク戦略の作成に向けた、国際会議の開催、アジア・オセアニア地域のサンゴ礁保護区のデータベースの構築等により世界のサンゴ礁保全をリードする。
- (2) 上記により、海洋保護区に関する目標の達成に向けた具体的な取組が推進され、また、当該地域のサンゴ礁保全が促進される。
また、これらの成果について生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)において発信する。

アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業

背景

- サンゴ礁は様々な価値を有する生態系であるが、世界的に劣化
 - 生物多様性保全上の価値、防波的役割、地域経済上の価値(漁業資源、観光資源)
 - 高水温による白化、オニヒトデの大発生等により世界的に劣化
- サンゴ礁保全分野での日本の貢献は国際的に高く評価
 - 日本はサンゴ礁を有する数少ない先進国の一つであり、国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)の発足当時(平成6年)から積極的に推進。平成17年7月から19年6月まではICRI事務局を務めた。
 - ICRIの中での役割分担として、アジア・太平洋については日本が中心的に牽引(欧州がアフリカ・インド洋、米国がカリブ海地域)
- 海洋保護区ネットワークに関する国際的目標
 - 持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)(2002年)において「代表的海洋保護区ネットワークを2012年までに構築すること」が実施計画として採択。生物多様性条約(CBD)第8回締約国会議(2006年)において、「世界の海洋及び沿岸域の少なくとも10%が効果的に保全されるべき」との数値目標を含む決議が採択。
 - 平成19年4月ICRI総会(東京)においては、データベース等を活用し、まだ保護されていない重要な箇所を補足しながら、サンゴ礁保護区のネットワークを形成していく旨の決議が採択。
 - 平成19年11月第3回東アジア首脳会議において、福田総理が各国と協力して「重要サンゴ礁ネットワーク戦略」を策定することを表明。
 - G8環境大臣会合における合意「神戸・生物多様性のための行動の呼びかけ」の中で、サンゴ礁を含む世界的に重要な生態系のネットワーク化を位置付け。

事業内容

(1) アジア・オセアニア地域会合(H21,22)国際サンゴ礁保護区ネットワーク会議(H20)でのサンゴ礁保護区ネットワーク構築方針の合意を得て、アジア・オセアニア地域で重点的な議論を実施。

(2) アジア・オセアニアサンゴ礁保護区データベース(H19~22)

- 各国の既存の保護区に関する情報収集
- 衛星写真を活用し、サンゴ礁の状況を把握
- サンゴの幼生の移動等も考慮した重要サンゴ礁の抽出
- 重要であるが、保護区になっていないサンゴ礁や、保護区に指定されているが管理が不十分なサンゴ礁を抽出

(3) アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク戦略作成(H20~22)

アジア・オセアニア地域会合での議論の他、関係する国際会議等で調整し、戦略を策定。